

〔研究ノート〕

都市のオープンスペースの空間構成について (その1)

2018年度広場・オープンスペース研究会活動報告

金子友美・高野美波

Spatial Composition of Open Spaces in Japanese Cities (1)
Report on the Activity of Our Open Space Research Group in 2018/2019

Tomomi KANEKO and Minami TAKANO

Based on knowledge obtained from research into open spaces for the past 30 years conducted both in Japan and overseas, the author (Kaneko) organized a research group consisting of students to further pursue this field of research. This study note reviews 37 domestic open spaces visited in academic year 2018 and introduces five samples in more detail including pictures and plans.

Key words: city (都市), open space (オープンスペース), spatial composition (空間構成)

(1) はじめに

昭和女子大学芦川研究室で行われていた海外都市広場調査に初めて参加したのは1991年であった。それから四半世紀余り、独自の歴史や文化を基盤として人々の生活の中心となっている都市広場に出会い、外部空間の計画手法についての分析を続けてきた。一方国内では、商業施設などの中に計画的に設けられたパブリックスペースや駅空間について、調査研究対象としてきた。

2018年にこれらの経験を踏まえ、再び国内の都市のオープンスペースに目を向けた。きっかけは前年12月の東京駅丸の内駅前広場のリニューアルオープンである。そこには、歩行者を中心とする人間のための空間が確保されていた。従来、多くの日本の駅前広場にはバスとタクシーのためのロータリーがあり、人々はそのまわりの隙間を歩いていた。実際、2000年頃の駅空間の調査では、駅前広場に人の活動のための十分な空間を見いだすことは難しかったのである。

このリニューアルを契機として、当研究室は新たな研究会を発足させ、事例研究をスタートした。今後、数年間にわたり、日本の新しい事例を中心に調査研究を行い、その蓄積によってデータベースを作成し、日本のオープンスペース計画のための手法を見いだすことを目的とした研究を継続する。

2018年秋、研究会活動についての第1回展示を行った。本稿では研究会活動と展示した5つの事例を紹介する。

(2) 研究概要

① 対象空間

オープンスペースという言葉は、近年様々な場面で使用されている。それは文字通りの空地の意味から、自由に開放された空間を指す場合、また空間ではなく自由な活動や開放行為自体を指す場合もある。学校建築やコミュニティ施設などにおいては多目的空間やフレキシブルな対応が可能な空間を指す。

本研究の対象空間とする都市のオープンスペースは以下のように定義する。都市空間は建築物の建つ部分とそれ以外の空地に大別することができる。空地には一般的に人間の立ち入らない領域すなわち山林や河川、自動車専用道路などと、それ以外つまり人間の活動の場となる領域がある。本研究では後者の人間の活動の場となる領域をオープンスペースと定義し、研究の対象とする(図1)。本研究では実際に見学することを前提としており、国内の事例を研究対象とする。

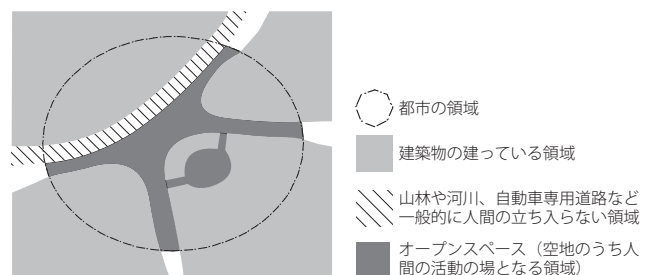


図1 都市のオープンスペース

② 研究会概要

研究会は生活機構研究科環境デザイン研究専攻および環境デザイン学科金子研究室所属学生のうち、参加希望者によって構成される。2018年度の参加者を表1に示す。

表1 2018年度広場・オープンスペース研究会参加者

所属	氏名
環境デザイン研究専攻1年	高野美波
環境デザイン学科4年	阿部桃子, 大崎望, 岡田美由紀, 鈴木斐南子, 鈴木涼花, 田中雅
環境デザイン学科3年	井上耀, 今村美花, 大矢日菜, 木村乃衣, 桐原佐和, 齊藤実佳, 田邊里帆, 豊嶋真喜, 西岡明莉, 平野恵梨, 望月シェナ

研究会では2週間に1回ほどのペースで勉強会を開催している。発足時にはまず関連する文献によってオープンスペース研究の学習をし、近年の社会の傾向を把握することから始めた。そして各自が事例を持ち寄り、あるいは雑誌「新建築」の過去10年分より、対象となる事例をピックアップし、それらをwebなどにより文献調査し、見学対象とすべきかを検討する。見学対象の基準としては、前述オープンスペースの定義に一致するもので、人間の活動が積極的に行われているもの、空間として新しいあるいは特徴的な試みが見られるものとした。それは将来的に日本のオープンスペースの計画手法を見いだすために必要であると考えたからである。

③ 研究方法

勉強会でピックアップした事例について見学会を行う。見学会に際しては担当者が概要を記したしおりを作成し、事前学習を行う。見学後はオープンスペースについての観察結果や意見を出し合い、オープンスペースの特徴を見いだすための視点を探る。

将来的な研究方法として、見いだされた視点によってより精度を上げた調査が必要になる可能性があるが、現段階では観察を主体としたものとしている。

④ 見学内容

事前に文献やwebページにより対象空間の概要を把握し現地では観察や撮影を行う。観察の対象は、空間の使われ方、人の動き、しつらえ、装置、サイン等であり、これらについて気づいた場面を各自が記録・撮影する。

(3) 見学結果

2018年度は9回の見学会で37カ所のオープンスペース見学を行った。2018年度に見学会を実施した対象空間の名称と所在地を表2に、その概要を表3に示す。

表2 2018年度見学実施空間の名称・所在地

事例No.	対象空間の名称	所在地
18-01	東京駅丸の内駅前広場	東京都千代田区丸の内
18-02	大手町タワー 大手町の森	東京都千代田区大手町
18-03	大手町フィナンシャルシティグランキューブ 大手町仲通り, アトリウム	東京都千代田区大手町
18-04	丸の内仲通り	東京都千代田区丸の内
18-05	丸の内ブリックスクエア一号館広場	東京都千代田区丸の内
18-06	東京国際フォーラム	東京都千代田区丸の内
18-07	中央区立泰明小学校・数寄屋橋公園	東京都中央区銀座
18-08	GINZA SIX ガーデン	東京都中央区銀座
18-09	赤坂アークヒルズ カラヤン広場	東京都港区赤坂
18-10	赤坂インターシティ AIR インターシティガーデン	東京都港区赤坂
18-11	赤坂サカス Sacas 坂・Sacas 広場	東京都港区赤坂
18-12	東京ミッドタウン プラザ, キャノピー・スクエア, コートヤード, ガーデンテラス, ミッドタウン・ガーデン, 芝生広場	東京都港区赤坂
18-13	国際連合大学前広場	東京都渋谷区神宮前
18-14	LA COLLEZIONE	東京都港区青山
18-15	プラダブティック青山	東京都港区青山
18-16	東京スカイツリー ソラマチひろば	東京都墨田区押上
18-17	リバーピア吾妻橋 にぎわい広場, ふれあい広場, うるおい広場	東京都墨田区吾妻橋
18-18	隅田公園	東京都台東区花川戸
18-19	浅草寺	東京都台東区浅草
18-20	浅草文化観光センター 展望テラス	東京都台東区雷門
18-21	姫路駅北にぎわい交流広場	兵庫県姫路市駅前町
18-22	代々木 VILLAGE by kurkku	東京都渋谷区代々木
18-23	としまエコミューゼタウン	東京都豊島区南池袋
18-24	南池袋公園	東京都豊島区南池袋
18-25	目黒天空庭園, オーバス夢ひろば	東京都目黒区大橋
18-26	用賀プロムナードいらかみち	東京都世田谷区用賀, 上用賀
18-27	二子玉川ライズ ガレリア, 中央広場, リボンストリート	東京都世田谷区玉川
18-28	溝の口西口商店街	神奈川県川崎市高津区溝口
18-29	たまプラーザテラス	神奈川県横浜市青葉区美しが丘
18-30	グランツリー武蔵小杉 屋上庭園	神奈川県川崎市中原区新丸子東
18-31	センターロード小杉	神奈川県川崎市中原区小杉町
18-32	法政通り商店街	神奈川県川崎市中原区小杉町
18-33	川崎駅東口駅前広場	神奈川県川崎市川崎区駅前本町
18-34	ラゾーナ川崎 ルーファ広場	神奈川県川崎市幸区堀川町
18-35	クロノゲート(ヤマト運輸の物流施設)	東京都大田区羽田旭町
18-36	トコトコダンダン	大阪府大阪市西区立売堀
18-37	栃木市巴波川沿い 蔵の街遊歩道	栃木県栃木市倭町, 湊町

表3 2018年度見学実施空間の概要

事例 No.	対象空間の名称	施設機能	施設と空間の概要	観察結果（抜粋）【見学日】
18-01	東京駅丸の内駅前広場	駅前広場	駅前広場の交通機能を確保しながら首都東京の「顔」空間として、2017年12月に丸の内駅前広場がオープンした。この完成により「信任状捧呈式」の東京駅から皇居へのルートが復活した。	広々、開放的、適度な緑、気持ちよい空間であった。／多くの観光客や外国人が多数記念撮影をしていた。／中心部には人が多いが、縁辺部には少なかった。／ベンチがあまり使われていない。／皇居に向かう軸線は通常は道路が遮断して途切れている。 【4月7日（土）】
18-02	大手町タワー 大手町の森	オフィス、 商業施設	建物は高層部のオフィスとホテル、地下の商業施設「OOTEMORI」で構成されている。2014年に竣工した高層ビルであり、公開空地には「大手町の森」という約3600m ² の森が作られており、これらはヒートアイランド現象緩和や土壌の保水効果の機能を持っている。	都会の森という印象であった。／晴天、平日の様子は異なると考えられる。／地形（崖）と樹木の組み合わせ方が上手いデザインとなっている。／高低差を利用してレベルの異なる空間を設けることで、2つの趣の異なる空間ができていた。上は通路、下は座ってサンドウィッチを食べるような場所であった。 【4月7日（土）】
18-03	大手町フィナンシャルシティ グランキューブ 大手町 仲通り、アトリウム	オフィス、 商業施設	2016年に竣工したオフィスビルである。日射制御や自然換気を誘発する仕組みを利用しているほか、災害時にも対応できる機能を備えている。丸の内仲通りの賑わいを延伸する大手町仲通りに歩行空間を延長させた事例である。	サウスタワービル正面は道路に面しているのでベンチに腰掛けにくい。ベンチが置物のようであった。／大手町仲通りは整備・デザインされているが禁止事項が多い。／ベンチに腰掛けると眺めの良い配置になっていないことがわかった。 【4月7日（土）】
18-04	丸の内仲通り	通り	オフィス街の一層を商業施設とし、高級ブランドショップが建ち並んでいる。けやき並木が続いていて歩道が広く、カフェのオープンテラスが設けられている。ストリートマーケットが行われることもある。	見学時フリーマーケットが行われていたが天候が悪かったので人の活動の判断ができない。／まわりの通りと出店者は関連していない。店は車道に出店していた。／けやき並木があることで、周囲のビルとは切り離れた空間ができあがっていた。 【4月7日（土）】
18-05	丸の内ブリックスクエア 号館広場	商業施設	2009年に復元された三菱一号館と地上34階建ての丸の内パークビルディングに挟まれた中庭空間である。植栽・噴水・彫刻が配され、多くの人の憩いの空間となっている。	天候（曇）の割には人がいて、ベンチに腰掛けている、立ち話をしている人の姿が多数見られた。／周囲の建築物によって囲まれた空間になっているので、独立した空間として感じられた。／よくある公開空地はビル間の通路だったりするが、ここは周囲の建物に囲まれた規模が人間のスケールに合っている。／植栽、ベンチ、噴水、それらの要素の組み合わせによって、視線の向きのコントロールができている。 【4月7日（土）】
18-06	東京国際フォーラム	国際会議場	1989年に行われた国際公開設計コンペによって選ばれたラファエル・ヴィニオリの設計による。5つのブロックに分けられたホール、会議室施設である。ガラスに覆われた大きな吹き抜け空間が各施設のロビー空間となっている。	広すぎて人が集う感じがしなかった。／天空なのに日がさすイメージがもてなかった。空間全体が日陰の印象が強い。／以前観劇で訪れた時は人が多く狭いと思ったが、人がいないと大きなスペースなのだと思った。（使用人数の最大値を収容可能な施設設計とした場合、人が少ない時にはボリュームが余る。） 【4月7日（土）】
18-07	中央区立泰明 小学校・数寄 屋橋公園	学校、 公園	大正12年の関東大震災によって被災した小学校をRC造3階建に再建した「復興小学校」の中の一例である。隣接した公園は東急プラザ銀座店と合わせて2016年にリニューアルした。	校庭の一部を公園として開放していた。／都心部の小学校ならではの空間利用である。／ビルや高速道路に囲まれた狭い敷地であるが、公園、開放校庭、校庭と上手くオープンスペースがつながっていた。 【4月7日（土）】

事例 No.	対象空間の名称	施設機能	施設と空間の概要	観察結果（抜粋）【見学日】
18-08	GINZA SIX ガーデン	商業施設	松坂屋銀座店跡地を中心とした2街区を統合し2017年4月に開業した。商業施設、大規模オフィス、能楽堂など多様な都市機能を内包する複合施設である。屋上庭園ガーデンは森林ゾーン、イベント対応可能な芝生、水盤からなる。	360° 銀座の町を見渡せる。／隣のビルの屋上や裏側など地上からは見えない景色が見える。／見られる建築であると同時に銀座を見る建築空間である。 【4月7日（土）】
18-09	赤坂アークヒルズ カラヤン広場	商業施設	17年の年月をかけて都市と自然の共存を掲げ一体的に開発された都市空間である。オフィス、住居、ホールなどがあり広場ではマルシェなど多くの催し物が開催される。	市場が開催されていた。／安心感があった。／首都高が近いのに車を感じさせない独立した空間となっていた。／空間に偶然出会うことはない広場と感じた。目的を持って行く広場である。 【4月14日（土）】
18-10	赤坂インターシティ AIR インターシティガーデン	オフィス、会議場、商業施設等	高層のオフィスビルであり、公開空地である約5000m ² の庭に囲まれるように建てられている。赤坂の起伏を活かし、8つの飲食店を内包している。	空間全体の規模は大きい、同じような空間（木々の多い遊歩道）が続くため、空間の変化がなく、使い方もよくわからなかった。／高低差はあった。／使い方の設定が曖昧な印象だった。 【4月14日（土）】
18-11	赤坂サカス Sacas 坂・Sacas 広場	放送局、商業施設	放送局の公開空地である。季節ごとの催し物が行われる。	建築物の構成によってオープンスペースをつくった例である。／広場でイベントが行われていたらもっと人出があったかもしれない。／各種施設に来ることを目的とした人が、付属する庭として使っている空間である。／新しいデザインの店が並ぶ空間であるが、人間の活動はあまり見られなかった。 【4月14日（土）】
18-12	東京ミッドタウン プラザ、キャノピー・スクエア、コートヤード、ガーデンテラス、ミッド・タウンガーデン、芝生広場	ホテル、オフィス、商業施設等	周辺一体的な都市開発であり、周囲は芝が敷かれ起伏のある広場となっている。ピクニックや散歩をしている人も多く、ヨガなどのイベントも多数行われている。	敷地が広い、公園風、通路状など様々なオープンスペースを内包していると感じた。／遊具がアートだったことが印象的である。／複数の空間があることから、選択肢の幅が広い。 【4月14日（土）】
18-13	国際連合大学前 広場	学校	丹下健三によって設計された大学である。青山通りに面していてピロティが中庭と連続しており、週末にはイベントが開催されていることが多く、多くの人で賑わっている。	道路側の市場は毎週開催されている。／奥の中庭空間では毎週異なるジャンルのイベントが行われているよう。／見学时催されていたコーヒーイベントは人が多すぎた。／建築物・空間としては特に工夫がされている空間ではない。／イベントの内容と場所性であればほど賑わっていたのか。 【4月14日（土）】
18-14	LA COLLEZIONE	イベント会場、商業施設	安藤忠雄の設計による複合商業施設である。建築に階段やブリッジが複雑に取り込まれ、回遊性を生み出している。様々な角度からの自然光が多様な表情を見せる。	屋内なのか屋外なのか、どちらともいえない空間がオープンスペースとなっている。／平面構成は単純な幾何学図形の組合せによるものだが、実際に空間体験してみると複雑な空間が生まれている。／光と影が意識された建築である。 【4月14日（土）】
18-15	プラダブティック 青山	商業施設	2003年に竣工した商業施設である。凹と凸状の菱形のガラスがランダムに配され、オブジェのような建築である。ビルの足下には広場が設けられている。	入口に設けられたプラザ（広場）にはプラダの買い物客以外の姿も見られた。／隙間なくビルが建ち並ぶ街並みの中で小さなスペースではあるが空間が抜ける場所である。／プラダのビルの人工的なデザインとヒューマンスケールの空間が対照的である。 【4月14日（土）】

事例 No.	対象空間の名称	施設機能	施設と空間の概要	観察結果（抜粋）【見学日】
18-16	東京スカイツリー ソラマチひろば	電波塔, オフィス, 商業施設	スカイツリーの足下で、低層の商業施設に囲まれている半円状の広場である。夏場は中央にある噴水で子どもが水遊びをするような空間である。	家族連れが多く、子どもが遊ぶ姿が見られた。親は木陰にいた。／広場に来ることだけに目的があるのではなく、スカイツリー全体に来ることが目的のように思えた。／道路際に自転車が多かった。近所から来る人が多いと思われる。／広場周りは飲食店が多く子ども連れには便利であると考えられた。／周囲の店は子ども向けというわけではなくこの広場が必ずしも子どもの遊び場として作られたわけではないと感じた。／夜は通行する人のみの風景である。 【6月9日（土）】
18-17	リバーピア吾妻橋 にぎわい広場, ふれあい広場, うるおい広場	集合住宅, 商業施設, 区役所	諸機能を持った高層ビルの足下の空間に設けられた異なる名称の3つの広場空間である。	大階段が印象的だったが、建物へのエントランスなのか休憩するためのスペースなのか疑問に思った。／あまり活用されている様子はなかった。／「うるおい広場」は閑散としていた。空間形態からするとイベントなどが行われるのかもしれない。 【6月9日（土）】
18-18	隅田公園	公園	政府が関東大震災後に公園緑地の防災上の重要性を認知し、整備した公園のひとつである。隅田川を挟んだ両岸に約1.3 km に及ぶ「臨川公園」として設けられた。	首都高の高架下のため日陰になっており、人々の休憩スペースとなっていた。／整備されている場所とそうでない場所があった。／整備されている場所でもあまり人はいなかった。／人が集まっているのはコーヒー店周辺と公園の一部だった。 【6月9日（土）】
18-19	浅草寺	寺社境内	浅草寺の起源は628年に遡る。江戸時代から続く行事として三社祭が行われている。雷門から続く仲見世通りは、境内への参道であり、多くの人で賑わう空間である。	仲見世通りは人が多かった。対して境内は広いが（仲見世通りに比べると）人はまばらだった。／外国人、比較的年齢層が高い人、写真撮影する人が多かった。／本堂付近は外国人率が減ったように思った。 【6月9日（土）】
18-20	浅草文化観光センター 展望テラス	観光案内施設	2012年、隈研吾設計で雷門の向かいに建てられた観光案内所である。敷地は326㎡と狭小だが様々な機能が内包されている。屋上の展望テラスからは浅草寺や仲見世通り、スカイツリーなどが一望できる。	浅草は人が多くて暑いイメージだが、木の外装によって涼しい印象をもった。／充電スポット、WiFi完備のため、外国人が利用していた。／最上階のオープンスペースで椅子に座る人が多く疲れている様子だった。／屋上から浅草やスカイツリーの景色を眺めることができた。観光情報の発信だけでなく、展望施設としても機能しているようであった。／最上階のレストランと隣のオープンスペースが連動していなかった。 【6月9日（土）】
18-21	姫路駅北にぎわい交流広場	駅前広場	駅北側の広場はバスやタクシーの交通機能を保持し、それらの喧噪から独立したキャッスルガーデン（地下広場）が設けられた。キャッスルビューは城と駅の同一軸線上の立地を活かして設けられた展望施設である。	交通ロータリーと広場が一体整備され雰囲気は統一されていた。／地下の広場では、高低差や壁・階段があることで他者との距離がほどよく保てる。／高低差があることで視界が上手く棲み分けられていた。／観光客対応と市民生活に対応した空間が共存していた。 【9月6日（木）】
18-22	代々木 VILLAGE by kurkku	商業施設	代々木ゼミナールの跡地に設計された商業建築であり、代々木駅からすぐの場所にある。植物園を内包し、夏にはビアガーデンなどのイベントが行われている。	代々木駅からも近く便利な場所である。／都会の小さなスペースに様々な工夫が施された空間が作られている。／見学时悪天候のためあまり人がいなかった。 【9月25日（火）】
18-23	としまエコミューゼタウン	区役所	区民に開かれた新しい庁舎として2015年に誕生した豊島区庁舎である。9階までの下層階を豊島区が使用し、上層階は分譲マンションとなっている。	区役所スペースも余裕をもった建築になっていた。／見学时悪天候のため10階の屋上庭園には出ることができなかった。 【9月25日（火）】

事例 No.	対象空間の名称	施設機能	施設と空間の概要	観察結果（抜粋）【見学日】
18-24	南池袋公園	公園	2016年4月にリニューアルオープンした公園である。日常的には人々の憩いの場であり、災害時には帰宅困難者のサポートなど防災拠点施設の役割も担う。	ビルに囲まれているが開けた空間には逆に安心感があった。／会社帰りの集団やファミリー、カップル、学生など様々な世代の人が集まっていた。／一日観察して時間帯により異なる顔を持つ空間だった。／イベント時のゴザ等の貸出が新鮮だった。(5 / 21) 【5月21日(月)・9月25日(火)】
18-25	目黒天空庭園、オーパス夢ひろば	高速道路ジャンクション	目黒天空庭園は大橋ジャンクションの上に作られた公園で植栽豊かで見晴らしのよい空間である。オーパス夢広場は巨大な壁に囲われた広場で人工芝が敷かれておりサッカー等のスポーツができる。双方とも車両の進入の危険性がないため安全性が高い。	屋上庭園と図書館とマンションの3つ異なる建物が繋がって自由に行き来ができるようになっていた。／自然豊かで居心地がいい空間になっていた。／庭園はカーブしており、場面が区切られ子どもたちが走っているところもあれば、落ち着いて静かに過ごしている人がいるところもあった。／高速道路の重なり合いの合間から青空が見えたり、光が空間に落ちていたところが良かった。／立体的なジャンクションを広場やコートとして利用している都会ならではの特徴的な例である。 【10月27日(土)】
18-26	用賀プロムナードいらかみち	遊歩道	産業活性のためにコミュニティが分断された住宅街の既存の道路を利用し、自動車によるアクセスを残しながら歩行者向けに整備された道路である。子どもが遊べるような水辺やオブジェが数多く並んでいる。	車道なので、車も通っていた。／老朽化が進んでおり使われていない空間が目立っていた。／床面の舗装に様々な工夫があり下を向くのが楽しかった。／ただ歩くという行為だけでない楽しい空間だと感じた。 【10月27日(土)】
18-27	二子玉川ライズ ガレリア、中央広場、リボンストリート	商業施設、オフィス、集合住宅	楽天の本社が移転し、商業施設や集合住宅が一体的に開発されることで生活において全ての機能が完結するようなまちとして整備された。広場が多く、環境への配慮もされている。	訪れた時間帯は日暮れであったが、人通りが多く広場ではイベントが行われ賑わっていた。／芝生広場や川を臨むデッキがあり人々が思い思いに過ごせる場所が作られている。／駅→商業施設→マンション→公園の順で構成されており、奥に行くに従って自然が増え人が減る印象であった。 【10月27日(土)】
18-28	溝の口西口商店街	商店街	元々は戦後の闇市で、現在もその佇まいがうかがえるような商店街である。2007年に火事でかなりの被害があったが、商店街は現存している。	鋭角な土地に構える八百屋は存在感があった。／狭い道でありながらも自転車やバイクが勢いよく通り抜けていくので注意が必要であった。／商店街の奥に覗くマンションの新旧の対比が興味深かった。 【10月27日(土)】
18-29	たまプラーザテラス	鉄道駅、商業施設	たまプラーザ駅直結の商業施設であり、広い歩行空間が設けられている。中央に人工芝を敷いた空間があり、休日はイベントが行われることもある。	まわりのショップの入り口はほとんどこのオープンスペースに向かって開いているので方向性が統一されている。／駅と直結しておりショッピングしながら駅内の電車を見ることができるのが驚きだった。／子どもの遊び場もあり周辺住民はここで生活が完結できるように感じた。 【10月27日(土)】
18-30	グランツリー 武蔵小杉 屋上庭園	商業施設	商業施設の屋上(約4300m ²)が庭園として整備されている。遊具が数多く並んでおり、武蔵小杉に住む子どもたちの遊び場となっている。	予想以上に人が多かった。／地域産業を活かした遊具が設置されていて、周辺地域とのつながりを感じた。／遊び方が限定されている遊具が多い印象であった。／この地域では他に公園などの子どもが安全に遊べる空間がないことで、ここに人が集まっているようである。／足下と見上げたときのギャップが大きい空間であった。 【11月24日(土)】
18-31	センターロード小杉	商店街	武蔵小杉が工業地帯であった頃から続く大衆居酒屋の多い通りである。都市開発が行われる中で下町情緒が残っているエリアとなっている。	高層マンションと昔ながらの商店街の景観のコントラストが新鮮だった。／勝手に喫煙スペースとなっているところがあり、男性が多数集まっていた。／想像していたよりも庶民的な印象だった。 【11月24日(土)】

事例 No.	対象空間の名称	施設機能	施設と空間の概要	観察結果（抜粋）【見学日】
18-32	法政通り商店街	商店街	以前は東京機械製作所や不二サッシの大工場や社宅が建ち並び賑わいのある商店街だったが、近年の都市開発で大型商業施設の出現により賑わいを失いつつある。	幅員が狭い道路に自転車・歩行者・車両が混在していた。／思っていたより歩行者が多かった。／入り口のゲートや床面の舗装が近年整備されたものかと思われるが他に商店街としての統一感を感じられなかった。／学生やお年寄りの方が多い印象であった。子育て世代は見られなかった。 【11月24日（土）】
18-33	川崎駅東口駅前広場	駅前広場	2011年に改修が行われ、歩車分離が明確にされた駅前広場である。広い歩行空間を設け、バスターミナルの上屋を高い位置に架けることで視認性と開放性のある空間を創出している。	大きな駅前広場でバス停から駅舎まで距離がありコンパクトに利便性を追求できなかったのかと感じた。／駅構内からの動線がガラスの箱によって分断されている。／建物や屋根が多く、広場的なもの（緑など）がほとんど無い。／駅前空間の整備は、人の通り道を作ったという印象であった。広場ではない。 【11月24日（土）】
18-34	ラゾーナ川崎ルーファ広場	商業施設	川崎駅直結の商業施設であり、商業施設に囲われるようにルーファ広場がある。広場は以前は駅への動線としての利用が多かったが、人工芝を敷くことで人が集う空間へと変化を遂げた。	ルーファ広場に芝生が敷かれたということで楽しみにして行ったが、人工芝のシートを上置きしただけであった。／改修工事前のルーファ広場との差を感じられなかった。／イベント重視の空間だと思われる。 【11月24日（土）】
18-35	クロノゲート（ヤマト運輸の物流施設）	物流施設	荷物はここに集め仕分けされ、適切な手段で目的地へと配送される。周辺住民への配慮として地域貢献ゾーンを設け、自由に利用できる外部空間や、体育館、保育園、カフェなどを提供している。	周辺住民への地域貢献のための空間と考えられるが、あまり活動できるような空間ではなかった。／車両と人のための空間の歩車分離が完全に行われていた。／敷地外の緑地と一体化しているという事前情報があったが、実際は周辺とのつながりはあまり感じられなかった。／一般的に工場や倉庫は町とは関係なく立地している印象があるがここは町に開かれていた。／施設全体が作り込まれている印象であった。そのため、空間の機能が限定されていると思われた。 【12月8日（土）】
18-36	トコトコダンダン	遊歩道	埋め立て河川の一部と防潮堤を含む護岸を整備した難壇状の広場である。水と町の境目を面的に緩やかに繋いでおり、防災と人との関わり方としての新しい提案となっている。	見学时天候が悪く屋外活動をする人の姿は見られなかった。／周辺は町工場が並ぶ下町的な場所であったが高層の集合住宅もあり、天候が良ければ家族連れなどの利用があるのではないかと思われた。 【3月7日（木）】
18-37	栃木市巴波川沿い 蔵の街遊歩道	遊歩道	栃木市は江戸時代より日光例幣使街道の宿場町として栄えた。巴波川沿いは蔵造りの街並みの残る地域である。	川沿い東側は歩行者の空間となっていたが対岸は車両も通行できる空間で、車両が通る度に避けなくてはならない空間であった。／横山郷土館前の巴波川の分節点河岸はベンチや案内板が整備されており、河岸には川の水に触れられるような親水空間が設けられていた。 【3月20日（水）】

(4) 事例紹介

見学会を行った事例の中から空間や人の活動の特徴的な5事例を選び、模型を制作し、2018年11月の秋桜祭にて展示を行った（写真1, 写真2, 図2）。

以下にその5事例の概要と特徴を紹介する。なお各事例の平面モデル図は地理院地図（文献No. 33）および関連文献、現地での観察を元に筆者らが作図したものである。地上1階を基準としておおよその空間の形を示した。図中の凡例を図3に示す。



写真1 2018年度秋桜祭での展示会場

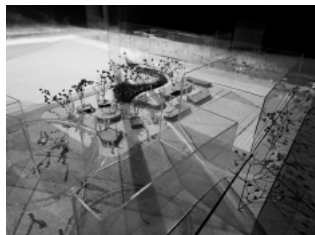


写真2 展示模型の一例



写真3 丸の内ブリックスクエア一号館広場全景



写真4 広場では多くの人が思い思いの時間を過ごしていた。



図2 2018年度秋桜祭で配布したチラシ

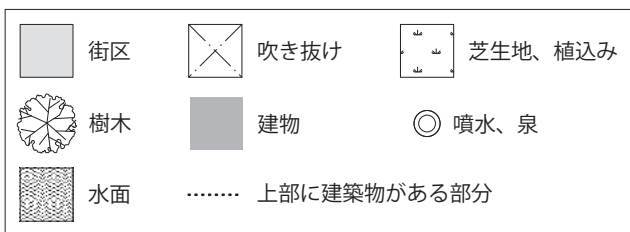


図3 平面モデル図凡例

① 丸の内ブリックスクエア一号館広場 (No. 18-05)

東京都千代田区丸の内は日本を代表するオフィス街として知られている。三菱一館は丸の内オフィス街に最初のオフィス建築としてジョサイア・コンドルによって建てられた(1894年竣工)。その後高度成長期の1968年に解体されたが、2009年復元された。新たな三菱一館には美術館が設けられ、オフィス街の印象が強かった丸の内の新しい顔となっている。また丸の内ブリックスクエアは地上34階建ての丸の内パークビルディングの低層部の商業施設である。一号館広場はその三菱一館と丸の内ブリックスクエアに囲まれた中庭空間である。植栽、噴水、彫刻が配され、曲線を用いた平面構成によって面的な広場を形成している。オフィス街で働く人だけでなく、観光客、美術館の前庭として憩いの場となっている。^{*1}

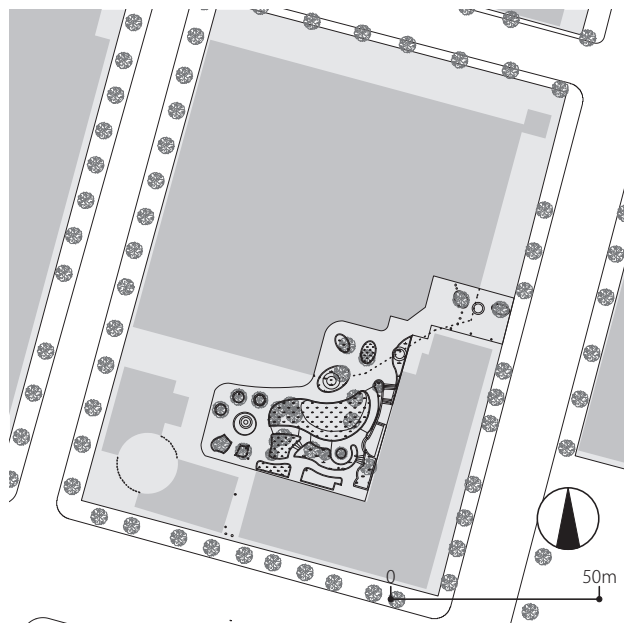


図4 丸の内ブリックスクエア一号館広場平面モデル図

観察結果 (2018年4月7日)

天候(曇)の割には人がいて、ベンチに腰掛けている、立ち話をしている人の姿が多数見られた。/周囲の建築物によって囲まれた空間になっているので、独立した空間として感じられた。/よくある公開空地はビル間の通路だったりするが、ここは周囲の建物に囲まれた規模が人間のスケールに合っている。/植栽、ベンチ、噴水、それらの要素の組み合わせによって、視線の向きのコントロールができています。

② 南池袋公園 (No. 18-24)

南池袋公園はJR池袋駅から徒歩5分ほどのところにある豊島区の公園である。第二次世界大戦の戦災で焼け野原となった跡に区画整理事業で誕生した。現在の開園時間は午前8時から午後10時となっている。

公園は「大きな芝生のある都市のリビング」をコンセプトに2016年4月にリニューアルオープンした。人々の活動の場となる芝生広場を中心に、地域活動の拠点となる多目的広場、生産者と消費者の食を介したつながりを目指し

たカフェレストラン、ソメイヨシノの植えられたサクラテラス、大きな滑り台のあるキッズテラスが整備され、多世代が楽しめる空間として整備された。日常的には人々の憩いの場であり、災害時には帰宅困難者のサポートなど防災拠点施設の役割も担う。また地元住民が運営活動に参加し、持続可能な公園経営を目指している。^{*2}



写真5 中央部の芝生は開放されている。



写真6 木陰で過ごす人たちも多い。

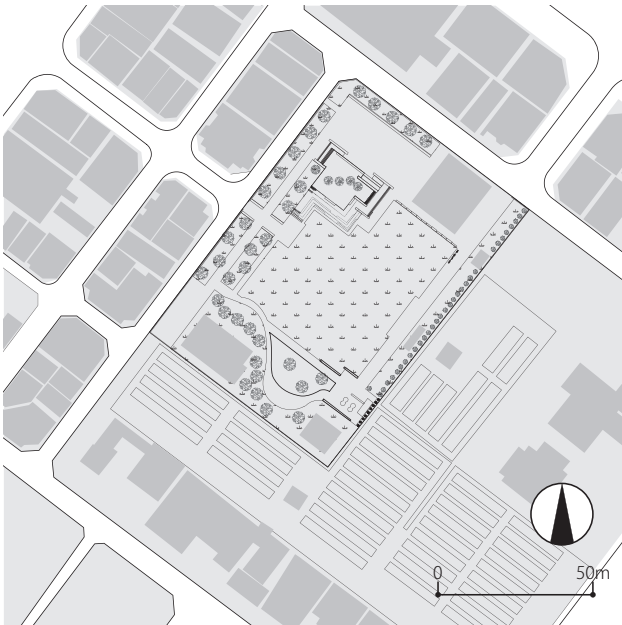


図5 南池袋公園平面モデル図

観察結果 (2018年5月21日)

ビルに囲まれているが開けた空間には逆に安心感があった。／会社帰りの集団やファミリー、カップル、学生など様々な世代の人が集まっていた。／一日観察して時間帯により異なる顔を持つ空間だった。／イベント時のゴザ等の貸出が新鮮だった。

③ 東京駅丸の内駅前広場 (No. 18-01)

辰野金吾設計による赤煉瓦建築東京駅舎が開業したのは1914年である。その後、第二次世界大戦の空襲による部分消失と再建を経て2003年、駅舎は国の重要文化財に指定される。2016年3月時点の東京駅の1日あたりの平均乗車人員は約418,000人である(参考文献No.9による)。

丸の内駅前広場は、駅の交通機能を確保しながら首都東京の「顔」空間として、3年間の整備工事を経て2017年12月オープンした。この広場の完成によって「信任状捧呈式」(新任の外国の特命全権大使が信任状を天皇陛下に捧呈する儀式)の東京駅から皇居へのルートが復活した。東京駅から皇居へは駅前広場と行幸通りが軸線状に整備されている。^{*3}



写真7 東京駅のシンボル赤煉瓦駅舎



写真8 広場は皇居へと繋がる軸線を形成している。

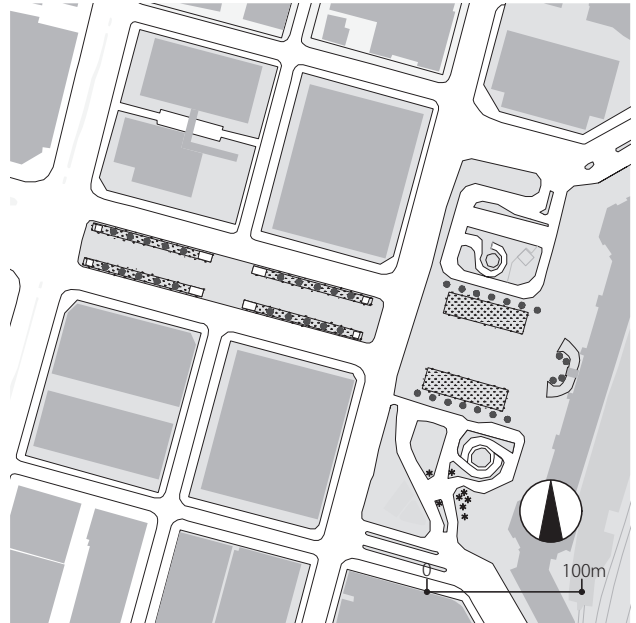


図6 東京駅丸の内駅前広場平面モデル図

観察結果 (2018年4月7日)

広々、開放的、適度な緑、気持ちよい空間であった。／多くの観光客や外国人が記念撮影をしていた。／中心部には人が多いが、縁辺部には少なかった。／ベンチがあまり使われていない。／皇居に向かう軸線は通常は道路が遮断していて途切れている。

④ GINZA SIX ガーデン (No. 18-08)

中央区銀座は日本を代表する繁華街である。ここは徳川家康の江戸入城後埋め立てによって商業地となった。地名は駿府の銀座(銀貨製造所)をこの地に移転させたことに由来する。明治時代以降は高級専門店やデパートが建ち並

び、東京の流行をつくる町となった。近年は都内他の商業地の発展に伴いその地位が変化してきたが、現在は2020年の東京オリンピック開催に向けて景観整備が進んでいる。高級ブランドの店舗も、次々とリニューアルオープンしている。

GINZA SIXは松坂屋銀座店跡地を中心とした2街区を統合し2017年4月に開業した。商業施設、大規模オフィス、能楽堂など多様な都市機能を内包する複合施設である。屋上庭園は約4,000m²銀座エリア最大の規模であり、多様な樹種の森林ゾーン、イベント対応可能な芝生、潤いをもたらす水盤からなる。地上の繁華街とは異なる開放感のある空間である。^{*4}



写真9 GINZA SIXの屋上に設けられたガーデン



写真10 地上の喧噪とは切り離された憩いの空間である。

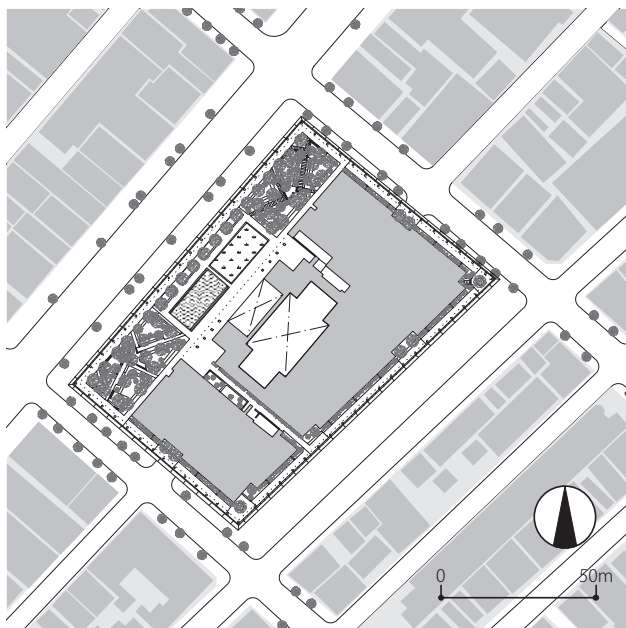


図7 GINZA SIX ガーデン平面モデル図

観察結果（2018年4月7日）

360°銀座の町を見渡せる。／隣のビルの屋上や裏側など地上からは見えない景色が見える。／見られる建築であると同時に銀座を見る建築空間である。

⑤ 姫路駅北にぎわい交流広場（No.18-21）

国宝であり世界遺産にも登録されている姫路城には年間約180万人（2017年度、参考文献No.7による）の観光客が訪れている。その玄関口であるJR姫路駅北側の広場は姫路城との関係を意識しながら再整備された。バスやタクシーの交通機能を保持し、それらの喧噪から独立したキャッスルガーデン（地下広場）が設けられた。階段状の空間に水路が配され、落ち着いた憩いの空間となっている。駅から続く地下通路は催事場として使われることも多く、市や展示が行われる。地上の広場ではライブイベントが行われる。キャッスルビューは城と駅の同一軸線上の立地を活かして設けられた展望施設である。このキャッスルビューからは駅西側のバスターミナルへ2Fデッキを歩いてアプローチできる。^{*5}



写真11 地上より低いレベルに設けられた交流広場



写真12 サンクンガーデンには水や緑が配されている。

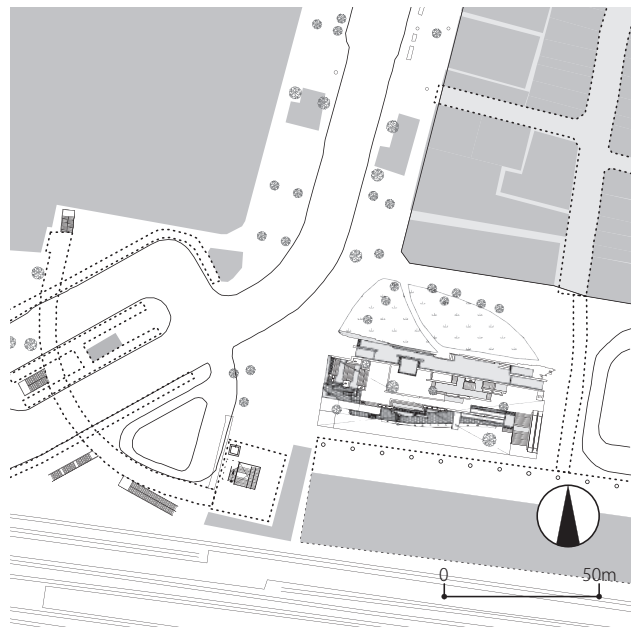


図8 姫路北にぎわい交流広場平面モデル図

観察結果（2018年9月6日）

交通ロータリーと広場が一体的に整備され雰囲気は統一されていた。／地下の広場では、高低差や壁・階段があることで他者との距離がほどよく保てる。

(5) おわりに

冒頭で述べたように、都市の外部空間に興味をもち、調査に参加してから足かけ30年近くになる。この間、海外の都市広場だけでなく、国内敷地内広場(PUS)、駅、街区内路地空間と、国内外の様々なオープンスペースを目にしてきた。30年前の日本の都市空間は、商業施設の中などに部分的に人間の活動の場が設けられてはいたものの、活動自体が制限されていたものも多かった。祭りやイベントの際に交通規制によって道路が一時的に人の活動のための空間として開放されることはあっても、常時人々が自由に使えるオープンスペースは限られていた。

今日、都市ではより多様な空間において人々の活動が行われるようになってきている。それを可能にした要因としてまず挙げられるのが、空間デザインが充実してきていることだろう。以前はとにかく公開空地としてスペースを確保し、せいぜい植栽やベンチを置く程度であったのに対し、近年の空間ははるかに積極的にデザインされるようになった。建築家が屋外空間のデザインに関わる機会も増えている。さらにもう一つの要因として、都市の屋外空間での活動に対する人々の意識が変わってきたことを挙げてよいだろう。関連する書籍も多く、雑誌が取り上げる記事も多い。社会全体が変化していると考えられる。

こうした流れの中で、オープンスペースの研究会活動の継続は、日本の都市空間の新しい可能性を探る意味においても意義深いことと考えている。

*1 参考文献 No. 1 による。/*2 参考文献 No. 1, 3 による。

*3 参考文献 No. 1, 2, 5, 9 による。

*4 参考文献 No. 1, 4, 6 による。/*5 参考文献 No. 7, 8 による。

参考文献

1. 新建築, 新建築社 (2009年10月号, 2016年7月号, 2017年6月号, 2018年3月号, 2014年7月号, 2016年6月号, 1996年8月号, 2017年12月号, 2008年4月号, 2007年5月号, 1993年1月号, 1989年12月号, 2003年9月号, 2012年6月号, 1990年1月号, 1991年1月号, 2012年5月号, 2015年5月号, 2013年5月号, 2011年6月号, 2015年9月号, 2011年3月号, 2011年5月号, 2006年12月号, 2013年11月号)
2. 宮内庁, <http://www.kunaicho.go.jp/>, 2018/10/15
3. 豊島区, <http://www.city.toshima.lg.jp/index.html>, 2018/10/15
4. GSIX, <https://ginza6.tokyo/>, 2018/10/15
5. 日本経済新聞, <https://www.nikkei.com/>, 2018/10/15
6. LIXIL ビジネス情報, <https://www.biz-lixil.com/>, 2018/10/15
7. 姫路市, <http://www.city.himeji.lg.jp/>, 2018/10/15
8. 小林正美, 市民が関わるパブリックスペースのデザイン 姫路市における市民・行政・専門家の創造的連携, エクスナレッジ, 2015
9. TOKYO STATION CITY, <http://www.tokyostationcity.com/>, 2018/10/15
10. 東京建物 特集2「大手町タワー」都市と自然の再生, <https://tatemono.com/csr/special/ootemachi.html>, 2019/3/24
11. 大成建築設計本部「大手町タワー」, <http://www.taisei-design.jp/de/works/2014/otemachi.html>, 2019/3/24
12. 三菱地所 オフィス情報 大手町フィナンシャルシティグランドキューブ, https://office.mec.co.jp/grand_cube/#1, 2019/3/24
13. 東京国際フォーラム 建築物について, <https://www.t-i-forum.co.jp/about/building/>, 2019/3/24
14. 小林正泰, 関東大震災と「復興小学校」—学校建築にみる新教育思想, 勁草書房, 2012
15. 森ビルのプロジェクト アークヒルズ, <https://www.mori.co.jp/projects/arkhills/>, 2019/3/24
16. 赤坂インターシティ AIR について, <https://www.intercity-air.com/ourstories/>, 2019/3/24
17. 10+1 DATABASE 4: ヘルツォーク&ド・ムーロン《プラダブティック青山》—豪華な意匠の合理性, <http://db.10plus1.jp/backnumber/article/articleid/75/>, 2019/3/24
18. 江戸東京学事典, 三省堂, 2003
19. 隈研吾建築都市設計事務所, <https://kkaa.co.jp/works/architecture/asakusa-culture-tourist-information-center/>, 2019/3/24
20. 目黒区 目黒天空庭園・オーパス夢ひろば, <http://www.city.meguro.tokyo.jp/shisetsu/shisetsu/koen/tenku.html>, 2019/3/24
21. 象設計集団 用賀プロムナード, <https://zoz.co.jp/?work=用賀プロムナード>, 2019/3/24
22. グランツリー武蔵小杉, <http://www.grand-tree.jp/web/index.html>, 2019/5/30
23. BUSINESS INSIDER JAPAN, <https://www.businessinsider.jp/>, 2019/5/30
24. 川崎市, <http://www.city.kawasaki.jp/index.html>, 2019/5/30
25. 羽田クロノゲート, <http://www.yamato-hd.co.jp/hnd-chronogate/>, 2019/5/30
26. 栃木市, <https://www.city.tochigi.lg.jp/>, 2019/5/30
27. 今村雅樹・小泉雅生・高橋晶子, パブリック空間の本, 彰国社, 2013
28. 隈研吾・陣内秀信, 広場, 淡交社, 2015
29. プロジェクト・フォー・パブリックスペース, オープンスペースを魅力的にする, 学芸出版社, 2005
30. LANDSCAPE DESIGN No. 108 公園を楽しむパークマネジメント, マルモ出版, 2016
31. LANDSCAPE DESIGN No. 109 都市がいきる「パブリックスペース」の活用, マルモ出版, 2016
32. 金子友美, 都市のオープンスペースの概念規定モデル—ヨーロッパの都市広場とアジアの都市空間の分析—, 昭和女子大学大学院生活機構研究科博士論文, 2013
33. 国土地理院 地理院地図, <https://maps.gsi.go.jp/#5/36.104611/140.084556/&base=std&ls=std&disp=1&vs=c1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1>, 2019/5/30

(かねこ ともみ 環境デザイン学科)

(たかの みなみ 生活機構研究科環境デザイン研究専攻2年)